

多説ある楊貴妃の死を史書・漢詩から推測する

国語班:小林 涼美

Abstract

The purpose of this study is to clarify the authenticity of the many legends of Yang Guifei. According to the investigation of history books, Yang Guifei was stalked and killed by An-shi Rebellion, but since the body has not been found, it can be seen that many novels, biographies, and folk tales have been made and told, and she has become a subject that future generation imagines. Therefore, in this study, it was concluded that Yang Guifei was strangled and killed.

要約

本研究の目的は、数多くある楊貴妃の伝説の信憑性を明らかにすることである。史書の調査によって、楊貴妃は安史の乱の際に、高力士によって縊り殺されたが、その遺体が見つかっていないために、小説や伝記、民話が数多く出来たことからわかるように後世の人々の想像する対象となった、ということがわかった。よって本研究では、楊貴妃は縊死によって死んだものであるということが結論付けられた。

1. はじめに

私は、中国の歴史や伝記の分野に興味を持ち、またその謎の多さに研究可能性を感じた。本研究では、中国歴史人物の中でも、謎が多いことで後世に名を馳せる楊貴妃に着目した。楊貴妃の謎が多い理由には、彼女の遺体が見つかっていないことや、真偽の不明な多種多様の伝説が広く知られていることなどが挙げられる。

彼女の謎を明らかにする方法としては、彼女の遺体を現地調査する、史書や伝説から推測する、伝説を信じる人々に信じる理由を聞く、などが効果的である。今回の研究に際しては、研究を行うがこの複数の方法中でも比較的容易であることから、史書や伝記を読み込むことで楊貴妃への理解を深め、その上で彼女の死について推測することで、最も可能性が高い死に際を考察することにした。

楊貴妃の死に方について、私が可能性が高いと考えたものは、楊貴妃ではなく身代わりが殺された、楊貴妃は殺されたのではなく殺されたふりをしたなど、偽装されたことで楊貴妃は殺されていないといったものである。その中でも、側近や民衆に楊貴妃の顔が知られていた可能性を踏まえて、最も可能性が高いのは、楊貴妃を殺したふりをして民衆にその様を示した後に、変装をして彼女が逃走する、というようなものだと考えた。よって、私はこれを仮説として設定した。

2. 研究手法

仮説を解明するために、楊貴妃の死に関する内容を史書や世間一般に広く知られる伝説書を読むことにした。本研究における史書とは、正史を記載したものである。正史とは、正しい歴史ではなく、あくまでその次代の支配的な勢力によって作られた歴史書であり、正確性が保証されたものではない。よって、ただ一つの史書だけでなく、複数の史書を併読して判断することにした。

3. 結果

《楊貴妃の死に方》

史書:『旧唐書』の玄宗紀、后妃伝、『新唐書』の玄宗紀、后妃伝、『資治通鑑』の肅宗至徳元年の条、『唐国史補』を読んだところ、『新唐書』を除き、いずれも高力士が関わっている記述がある。直接的な死因は、「自尽ヲ賜ウ」「縊死セシム」「死ヲ賜ウ」「縊ス」「縊死セシム」「縊ラシム」と記述がある。

旧唐書-玄宗紀	旧唐書-后妃伝	新唐書-玄宗紀	新唐書-后妃伝	資治通鑑	唐国史補
自尽ヲ賜ウ	縊死セシム	死を賜ウ	縊ス	縊死セシム	縊ラシム

小説、伝記:『長恨歌伝』、『楊大真外伝』、唐の詩人劉禹錫の詩を読んだところ、『長恨歌伝』『楊大真外伝』とも

に縊死としているが、劉禹錫の詩には金屑を飲んで死んだと記述がある。

長恨歌伝	楊大真外伝	劉禹錫の詩
縊死	縊死	金屑を飲んで死ぬ

《楊貴妃の死んだ場所》

史書:場所の記述があるのは『旧唐書』后妃伝、『新唐書』后妃伝、『資治通鑑』の肅宗至徳元年の条、『唐国史補』である。

『旧唐書』『資治通鑑』には「仏室」、『新唐書』は「路祠ノ下」、『唐国史補』は「仏堂ノ前ノ梨樹ノ下」と記述がある。

旧唐書-后妃伝	新唐書-后妃伝	資治通鑑	唐国史補
仏室	路祠ノ下	仏室	仏堂ノ前ノ梨樹ノ下

小説、伝記:場所の記述があるのは『楊大真外伝』。「仏堂ノ前ノ梨樹ノ下」である。

《日本渡来説》

理由① 楊貴妃の亡骸が最終的に見つかっていないことが、替え玉説、蘇生説から考えられる。

理由② 山口県油谷町二尊院に楊貴妃墓があることから。

4. 考察

多くの史書に縊死とされているが、亡骸が見つかっていないという情報も広く行き渡っているために、後の世では様々な創作がされ、脚色がついて今のような多くの物語ができているのだと思われる。

5. 結論

楊貴妃は、史書によると死んだことになっているが、亡骸が見つかっていないと広く知れ渡っている上に、多くの著名な詩人が楊貴妃を題材に空想的な詩や物語を作ったので、それに便乗するように、またはそれを元に少しの脚色を加えて、民間でも多くの民話が作られたと考えられる。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

中国哲学書電子化計画ホームページ 旧唐書(2023/4/2)

<https://ctext.org/wiki.pl?if=gb&res=456206>

中公新書出版 村上吉廣著『楊貴妃』